

全国学力・学習状況調査は、小学校第6学年と中学校第3学年を対象に、児童生徒の学力や学習の状況、課題等を把握するとともに、それらを踏まえて児童生徒への学習指導の改善・充実に役立てることを目的として実施されています。教科に関する調査に加え、生活習慣や学習環境に関する質問紙調査も実施されています。なお、この調査により測定できるのは、学力のうち、特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどをご理解ください。

【瑞穂市全体の結果から】

小・中学校とともに教科に関する調査において、小学校は2教科とも全国平均正答率より下回り、中学校は3教科とも全国平均正答率を上回る結果となりました。

【小学校】

国語	全国平均正答率を下回っています。
算数	全国平均正答率を下回っています。

【中学校】

国語	全国平均正答率をやや上回っています。
数学	全国平均正答率を上回っています。
英語	全国平均正答率を上回っています。

教科に関する調査の状況（全国平均正答率と比べて）

【小学校】

- 国語 ○話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる問題がよくできていました。【言葉の特徴や使い方】
- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる問題に課題が見られました。【言葉の特徴や使い方】
- 算数 ○立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる問題がよくできていました。【図形】
- 整数と小数の減法の計算をすることができるかどうかをみる問題について課題が見られました。【数と計算・変化と関係】
- 単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる問題について課題が見られました。【数と計算】

【中学校】

- 国語 ○表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる問題がよくできていました。【書く】
- 文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる問題に課題が見られました。【言葉の特徴や使い方】
- 数学 ○筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題がよくできていました。【図形】
- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる問題がよくできていました。【データの活用】
- 英語 ○ 日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる問題がよくできていました。【聞く】
- 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題がよくできていました。【書く】

質問紙調査 ※①～⑤は、「あてはまる」「ややあてはまる」の回答を合算した割合を示しています。

- ① 「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒は、小・中学校ともに8割以上であるが、小学校では全国よりやや低く、中学校では全国を上回っています。
- ② 「先生はあなたのよいところを認めてくれる」と回答した児童生徒は、小・中学校ともに9割以上であり、全国より上回っています。
- ③ 「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と回答した児童生徒は、小・中学校ともに9割以上であり、特に中学校の数値が高く、全国を大きく上回っています。
- ④ 「これまで受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をよく使用している」と回答した児童生徒は、小・中学校ともに全国を上回っており、特に中学校の活用が進んでいます。
- ⑤ 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」と回答した児童生徒は、小・中学校ともに9割以上であり、全国より上回っています。
- ⑥ 「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されない」と回答した児童生徒は、小・中学校ともに8割程度であり、全国より大きく上回っています。

【今後の指導について】

市の重点として思考力や表現力の向上を目指し、個や集団で『考える』『比較する』『説明し合う』などの活動を位置付け、その中で教師が児童生徒の学習状況を把握し、的確な支援を行うことを大切にしています。

さらに、授業の中で、児童生徒が分かったことをアウトプットすることにより、学びを自覚する場を設定したりするなどして、知識・技能のさらなる定着を図ります。

また、児童生徒が意見交流をする中で、仲間の考えの違いや、それぞれの良さや違いを認め合うことを大切に、折り合いをつけ、適切な人間関係を構築する力の育成を図ります。